

# 支援事例 ケース7

## 相談者

千葉県野田市在住 40代 男性 無職 2006年5月から入居

### 【相談内容】

工務店に勤務していた相談者は、勤務中に怪我をして仕事を継続することができなくなり、解雇された模様です。退職後は今までの蓄えで生活していましたが、やがてそれも使い果たした為、派遣の日雇いの仕事を始めたそうです。ところが収入が非常に不安定な状況になり、最近ではライフラインの支払いもままならなくなっていたようです。両親は他界して身内に頼れる人がおらず、所持金も数千円となってしまう、家賃どころか、携帯電話や電気代さえも支払えず停止してしまった為、**どうしていいのか助けてほしい**との相談がありました。

### 【対応内容】

相談者の自宅を訪問して話を聞いてみると、勤務先を2年前に解雇されてから急に夫婦仲が悪くなり、離婚して元妻と娘は宮城県の実家に戻ってしまったそうです。その後震災が発生し消息が途絶えた為、1年間現地で探したそうですが、元妻も娘も消息不明のまま現在に至っているとのことでした。懐中電灯をつけた中で泣きながら話をする様子は元氣も無く、精神的にも相当まいっている様子が手に取るように分かりました。とりあえず、明日役所に相談に行きましょうと言ってその日は別れ、翌日同行で相談に行ったところ、市役所のケースワーカーの方も早急な対応が必要であるとの判断により、生活保護の申請を直ぐに受け付けてくれました。

### 【入居者様の声】

離婚して元妻と娘が宮城の実家に戻った直後に震災が起きた時は、言葉にできない後悔の思いが自分を襲いました。今なお消息が掴めないことで、更に自虐的になってしまいました。これからどうなるのだろうと精神的にも追い詰められた状況の中で連絡したのですが、多分、居留守を繰り返した叱責と累積した家賃の支払いについての話をされると思っていたが、非常に丁寧に公的制度の説明をしてくれたばかりか、私のやりきれない気持ちも親身に聞いていただいて、**本当に感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。**